

日本国際情報学会 国際開発研究部会 2022年度 第1回 研究報告会 報告書

国際開発研究部会 2022年度第1回研究報告会を下記のとおり開催しました。

記

1 部会目的

国際開発課題を経済開発と社会開発の両面から捉えて、ミレニアム開発目標(MDGs)や持続可能な開発目標(SDGs)を含む国際開発枠組み及び人間の安全保障・人権・社会開発のような開発理念をアプローチし、そして貿易と開発、技術移転・技術開発の促進、産業集積と地域経済発展、貿易障壁の削減の諸課題を経済学的な視点から理論・実証・政策の側面から研究する。

2 開催日時

2022年(令和4年)6月25日(土) 15時00分～17時20分

3 開催会場

日本大学経済学部7号館7073教室とZOOM(Web会議) ー同時開催ー

4 研究報告会〔各報告25分、質疑応答15分〕 (敬称略)

(1) 開会あいさつ(15:00～15:05) 部会長



今回は、感染状況を踏まえ、対面とZOOMのハイブリッド開催とした。これにより距離的な制約を克服しながら多くの方に参加の機会を提供できたと思う。会場は双方向となるが、しっかり繋げて質疑をしながら考察を深めたい。

(2) 研究報告会〔各報告25分、質疑応答15分〕 (敬称略)

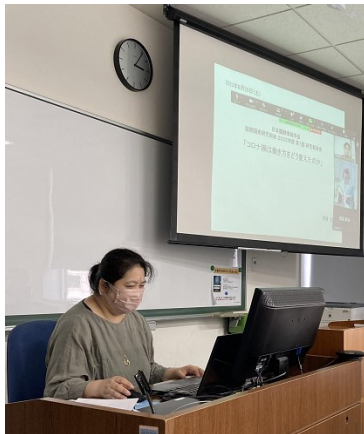
司会者：陸 亦群 国際開発研究部会長・日本大学経済学部教授

第1報告 (15:05~15:45)

【対面】

報告者：芳崎 文香 日本国際情報学会国際開発研究部会

テーマ「コロナ禍が働き方をどう変化させたのか」



コロナ禍によって日本ではテレワークを導入する企業が増えたことを検証し、副業やワークシェアなどの働き方が変わりつつあると説明した。そのうえで、働く場所（勤務地）ではなく働き方で職業を選択するようになるのではないかと指摘した。

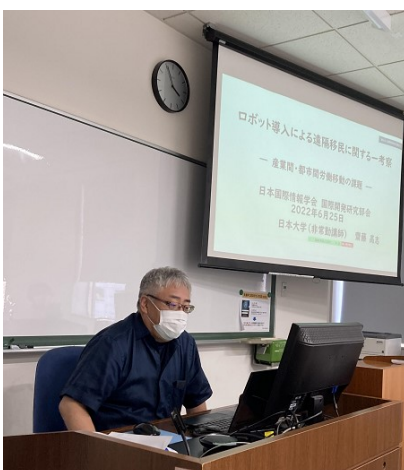
第2報告 (15:50~16:30)

【対面】

報告者：齋藤 高志 日本大学（非常勤講師）

テーマ「ロボット導入による遠隔移民に関する一考察

— 産業間・都市間労働移動の課題 — 」



リチャード・ボールドウィンの歴史観からグロボティクス（遠隔移民）を説明し、ロボットの4つの導入事例と日本国内労働力（人）の移動状況を確認した。グロボティクス導入は国際間や都市・地方間で急速に進む可能性があるが、日本では兆候確認は難しいが、今後技術・雇用・価値観などの複合要素の改善で変化が促進するのではないかと考察した。

第3報告（16：35～17：15）

【オンライン】

報告者：羽生 勇作 日本大学大学院総合社会情報研究科後期課程修了・博士
テーマ「エネルギーの呪縛と日本の安全保障」



日本でも化石燃料は7世紀には知られていた。近代化以降の日本はやがてエネルギー問題に直面し、対米戦争の一因となった。将来、メタンハイドレートや核融合などの新技術によるエネルギーの自給に成功すれば、政治経済産業に新たなパラダイムが展開し、明治以来の「エネルギーの呪縛」から解放されるであろうと考察した。

(3) 閉会あいさつ 日本大学大学院総合社会情報研究科 准教授 前野 高章



本日は3つのテーマで報告がなされた。質疑も活発に行われ考察が深まったと思う。次回も最適な開催方法を検討しながら、お互いに研究を深めていきたい。

5 参加者

18名（会場8名、ZOOM10名）

